

ゆたかな郷土



まちをつなぐ・ささえる

ふね ひと き
船をこぐ人と木づちが
かいてあるね。



ラン まつりちゃん



じ よ
字が読めなくても、
これで道がわかるね。



タフ

かい た 海大くん



えど じ だい おりかさ ふなこし えいり どうひょう た
江戸時代の織笠船越絵入道標(上右:建っていたころ。上中:きざまれた
絵と文字を拡大したもの)と、山田道路高架下にある「沼の御前」伝承記念
碑(左)

おりかさ ちく ふなこし はま おおつちよう
道標は織笠地区にあったもので、船越地区への浜ぞいの道と大槌町へ
の道を絵で表しています。

記念碑には、昔ここに大きな沼があってひとびとが行き来に難儀していた
こと、沼の主を退け道を通すことに貢献したイタコを祀ったことがきざま
れています。

ひととをつなぐ「道」は、昔から生活をささえる重要なものでした。



まちをつなぐ



礼堂の一里塚

今でものこる一里塚

山田町には、江戸時代に造られた一里塚が石峠・田名部・礼堂・萩野平の4か所にのこっています。

鞭牛和尚

今の宮古市に生まれた牧庵鞭牛(1710〔宝永7〕年-1782〔天明2〕年)は、46歳のとき三陸をおそった飢饉をきっかけに、古くから陸の孤島であったこの地方と内陸とを結ぶ道を築くことに生涯を捧げました。

例えば山田地区と織笠地区をつなぐ道や、織笠地区から大槌町にいたる山道は鞭牛が切り開いたものです。

町内には、鞭牛和尚が建てた道供養碑や、和尚を記念した六角塔などがのこされています。



六角塔

浜街道から国道45号へ

気仙から久慈までの浜街道がすべて完成したのは、鞭牛和尚が亡くなってから101年後、1883(明治16)年のことでした。そして自動車が行ける国道45号の全線開通はさらに89年後、1972(昭和47)年のことになります。

山田線(今の三陸鉄道リアス線)

山田線の宮古駅～陸中山田駅は1935(昭和10)年、陸中山田駅～岩手船越駅は1936(昭和11)年、岩手船越駅～大槌駅は1938(昭和13)年に開業しました。



山田線の開業を祝う人びとのようすです。



1923(大正12)年ごろの、宮古町(当時)～山田町の定期自動車(今のバス)です。中央の自動車は県で6台めに登録されたものでした。

新たな「道」

町内で「新たな『道』」といえば、細浦・柳沢線でしょう。この道は、東日本大震災で国道45号が寸断された経験を活かし、災害に強い、町の第2の動脈として造られました。ほかの高台道路も考え方は同じです。

「新たな『道』」ができることで、地区の間のつながり、人びとのつながりも大きく変わっていきます。



細浦・柳沢線開通式典(2018〔平成30〕年12月23日)

人びとをつなぐ

三陸がぜんぶつながったら、
便利になるわね。

夏織さん



太平洋沿岸をつなぐ ~三陸沿岸道路~



山田宮古道路の開通式典。山田南小学校の子どもたちも参加し、虎舞を披露しました。

三陸沿岸道路は、宮城県仙台市から青森県八戸市までの約360キロメートルを結ぶ自動車道です。2017(平成29)年11月19日、このうちの山田宮古道路(山田インターチェンジ~宮古南インターチェンジ)の約14キロメートルが開通し、それを祝う式典が行われました。

さらに、2019(平成31)年1月12日には山田南インターチェンジ~大槌インターチェンジ、2019(令和元)年6月22日には大槌インターチェンジ~



開通した山田宮古道路。三陸沿岸道路が全面開通すれば、冬の東北の交通が大きく変わります。内陸にある東北自動車道より雪の影響を受けにくいのが特徴です。

釜石北インターチェンジが開通しました。これで釜石山田道路(山田南インターチェンジ~釜石ジャンクション)の約23キロメートルが開通、三陸沿岸道路は2021(令和3)年度中にすべてがつながる予定です。

道路や鉄道で町外とつながっていなかったら、山田はどうなるだろう。



線路はつなぐよどこまでも ~三陸鉄道~

1984年(昭和59年)4月に北リアス線(宮古駅~久慈駅)と南リアス線(盛駅~釜石駅)を開業した三陸鉄道株式会社は、岩手県や三陸沿岸の市町村などが株主となった第3セクターの鉄道会社です。

東日本大震災では大きな被害を受けましたが、地震から5日後には一部で運行を再開、2014年(平成26年)4月6日までに北リアス線・南リアス線の全線を復旧させ、さらに2019年(平成31年)3月23日には復旧した山田線の宮古駅~釜石駅をくわえ、大船渡市の盛駅から久慈市の久慈駅までを三陸鉄道リアス線として1本で結ぶようになりました。

そのおよそ半年後、令和元年東日本台風の被害で全体の約7割が不通となりましたが、2020年(令和2年)3月20日までに全線を復旧させ、三陸沿岸の人びとの足としてがんばっています。

三陸鉄道リアス線開通の日の織笠駅(2019年(平成31年)3月23日)。織笠川より南にあった駅は震災で大きな被害を受け、現在の位置に建てなおされました。



令和元年東日本台風で不通になっていた三鉄が帰ってきました(2020(令和2)年1月16日、陸中山田駅で)。

まちをささえる・人びとをささえる

やま だ まちシーエムジェービーこうじ しむしょ
山田町CMJV工事事務所

さあ、これからどんな町をつくっていかうか。



土地のかさ上げ、高台の住宅地造成、防災拠点の整備など、新しい山田町をささえる工事を行っているのが山田町CMJV工事事務所です。

CMJVとは、町を助ける専門家が、工事のやり方やかかる時間・お金を管理する「コンストラクション・マネジメント」と、大きな工事をいくつかの会社で協力して行う「ジョイント・ベンチャー」の頭文字です。



山をけずった土は東京ドーム3杯分

町役場屋上から見たかさ上げ造成地
(2017〔平成29〕年9月)

山田町CMJV工事事務所所長(2017〔平成29〕年当時) 西彰一さんのお話

山田地区のかさ上げでは、市街地が山側の土地よりも高くなるため、排水を工夫しました。また、織笠川北岸をかさ上げしなかったのは、津波が来たときに水が川に集中して、上流に被害がおよぶことを防ぐためです。山田病院周辺の造成では、ベルトコンベヤーを設置、ダンプの数を最小限におさえました。私たちは、より安全な場所を造っています。そこにどんな「まち」をつくっていくかは、みなさんにかかっています。

ふだんは見えないけれど ~水道~

蛇口をひねると水が出ることは、ごくあたりまえに思えるかもしれませんが、東日本大震災のとき、山田町では上水道は豊間根地区と大浦地区の一部をのぞいて使えなくなり、下水道も処理を停止しました。「あたりまえ」は多くの人の働きによってささえられています。



山田町のマンホールは、上水道はクジラ、下水道はホタテのデザインになっています。

山田町上下水道課課長補佐(2017〔平成29〕年当時) 小原裕毅さんのお話

水道は、ふだんは見えないけれど大事なもので、自然にもつながっています。そのことを知ってもらえればありがたいです。

2016(平成28)年に処理を始めた下水道終末処理場「クリエイティブアやまだ」では、最終的に塩素ではなく紫外線で消毒した水を排出します。そのほうが環境を汚さず、漁業への影響が少ないからです。